

## ICTを活用した学習の様子

本校では、児童生徒の実態（学習状況、身体の動き、意思の表出等）に応じて、適切な支援機器を活用しています。その中で、ICTを活用した学習を紹介します。

### 視線入力装置での学習

視線入力装置では、目の動きを読み取ることで、マウスを動かすことができます。手の動きの困難さによってマウスを動かすことができない児童生徒でも、パソコンでゲームをしたり、曲を再生したり、機器を操作したりすることで学習ができます。



視線入力装置（学習の様子）

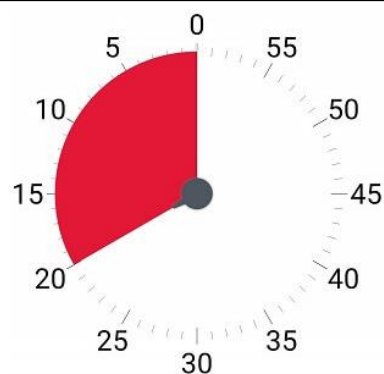
### タブレット端末での学習

タブレットのアプリケーションを使用することにより、発語での意思の表出が困難な児童生徒が、シンボルを選択することで意思の表出をし、コミュニケーションをとることができます。

また、時計を読むことや、活動の見通しをもつことなど、理解が困難な児童生徒にも視覚的に提示することで、指導の効果を高めることができます。



気持ちの表出（イラスト例）



時間の視覚化